

-873

中山正男

大麻さんとは文芸日本の会合でたかたか會つていなから親しく語りあうことかなかつた。牧野也神山(それた言田沢)とは人肉なまみの交りをついけておろいひとい毒舌や冗談のやりとりをしつきたか大麻さんにはその記憶もたない。馬喰の子であり、北梅道の性も身につけて育つたほくのことであるから。たれの前にても遠慮なく、すぐ大あくらをかいて得意の早口でまくしたて、しかも相手をおうなしに親友にしてしまふ中山流の手々にもおえをかつたのか大麻卓である。それをいま考へてみると、その原因は大麻さんの鼻にあつたりしい。どうもあの貴族性の鼻かにか手のようた。中山正男のいかを雄弁も彼の鼻の前には何にひとつ説得力をもたなかつたのである。・

牧野には熱湯のような激しさがあつた。・講騰し、膨張してときには相手に火傷を与え